

# 他者の信頼性判断の正確さに関する調査研究

## A survey study on judgment accuracy of other's trustworthiness

林 直保子  
Nahoko Hayashi

関西大学  
Kansai University  
nhayashi@kansai-u.ac.jp

### Abstract

The purpose of this study was to clarify the relationship between people's trustfulness and judgment accuracy of other's trustworthiness. To this end, a survey study was performed. As a result, no positive correlation was found between people's trustfulness and their accuracy of judgments of others' trustworthiness, which was reported in the previous study. Father research was needed to confirm the structure of trust strategy.

**Keywords** — trust, trustworthiness, gullibility

### 1. 問題と目的

菊池・渡辺・山岸(1997)において、一般的信頼感の高い人々は、低い人々に比べ他者の人間性をより正確に推定できることが報告されている。この知見は、山岸(1998)による信頼の解き放ち理論の重要な基礎となっており、高信頼者が騙されやすいお人好しではないことの実証的根拠のひとつを提供する。Hayashi & Yosano(2005)は、菊池ら(1997)の用いた見極め課題の問題点、すなわち、四人のジレンマにおける行動予測が、信頼性判断の課題として適切ではない点を指摘した上で、分配委任ゲームを用いて信頼感と信頼性判断の関連を再検討し、他者の信頼性判断の正確さと信頼感の間には関連は見られないこと、および信頼性を見極めには他者の多様性に関する信念が関連している可能性があることを指摘した。林・与謝野(2010)は、Hayashi & Yosano(2005)の実験が学部学生のみを用いており、信頼性判断の必要性に迫られるような社会的経験が不足していた可能性を考慮し、正確な信頼性判断の基礎となる社会的知性がどのような社会的環境において育まれるのかを検討するために、学部生に加えて社会人・社会

人経験者を含む大学院生を参加者として、信頼性判断場面の動画を用いた調査研究を行った。より具体的には、4名の人物が分配実験とは無関係なテーマについて集団討議をする動画を実験参加者に提示し、動画の登場人物が、それぞれ別の他者と自分の間に金銭を分配する実験においてどのようにふるまったかについて予測を求めた。その結果、信頼性判断と関連する社会的経験については明確な結果を得ることができなかったが、社会人・院生を参加者とした実験では高信頼群の信頼性判断の精度が相対的に低く、大学卒業後も一般的信頼を高く保ち続けている人々が、「騙されやすいお人よし」である可能性を示唆するものであった。一方で、品田・山岸・Krasnow (2010)は、ターゲットの顔を数秒間視聴し、その情報のみからターゲットの信頼性を判断する課題をもちいて、高信頼者は低信頼者よりも他者の利他性の判断能力が優れているという結果を報告した。本研究では、それぞれ異なる方法を用い、矛盾する結果を導き出しているこれらの研究の方法上の問題を整理した上で、信頼性判断の材料となるターゲットの映像をweb調査により提示することで回答者の社会的背景の分散を大きくとり、信頼性判断と信頼感の間の関連を明確にするとともに、信頼性判断の正確さに及ぼす社会的変数を検討することを目的とした。

### 2. 方法

音声動画条件と無音声動画条件の2条件を設け、web調査を行った。いずれの条件でも、以下の方法で撮影された動画をもとに刺激を作成した。

**動画の撮影** 2名ひと組の学生が、それぞれ3

つの異なるテーマ（就職活動や政策等社会的なテーマ）について討議をしている映像をビデオ撮影した。撮影に先立ち、学生は討議の相手とは異なる参加者ととも、現金を用いた分配委任実験の分配者として 3000 円を自分と他者間で分配する実験に参加していた。動画は、3つのテーマそれぞれについて、7 分間撮影された。音声動画条件に用いた 1 分間の動画は、7 分間の動画のうち、2 名の学生が最も均等に発言している部分を抜き出した。また、無音声動画条件に用いた 30 秒の動画は、音声動画条件の第 1 動画の 1 分間のうち、前半の 30 秒を用いた。

**音声動画条件** 動画条件では 20 歳～60 歳の男性回答者 800 名が、各ペアについて 3 本（各 1 分）の討議映像を見て、各映像の視聴後に分配額の予測と予測の確信度を回答した。Web 調査での人物映像提示に際しては、目から鼻にかけて処理を施した。また、発言が聞き取りにくい場合があるため、発言を字幕スーパーで表示した。

**無声動画条件** 静止画条件では、20 歳～60 歳の男性回答者 400 名の回答者が、各ペアについて 30 秒の無音声の討議映像を視聴し、分配額の予測と予測の確信度を回答した。

**調査項目** 回答者は分配額の予測に先立ち、信頼感項目 3 項目、用心項目 3 項目を含む諸項目に回答した。動画視聴と分配予測の後、回答者は自らの職業経験について回答した。

### 3. 結果

#### 信頼と分配予想額の相関

音声動画条件では、各回答者は 6 名のターゲット人物に対してそれぞれ 3 回、計 18 回の分配額予測を行っている。ここでは各ターゲットについての 3 回目（最終）の予測を各ターゲットの信頼性判断とした。無音声動画条件では、各ペアについて 1 回の信頼性判断を行ったため、この判断を用いた。一般的信頼項目 3 項目を用いて因子得点を求め、これを信頼得点とした。信頼得点と各ターゲットに対する分配額予測の相関を表 1 に示した。音声動画条件では、すべてのターゲットにつ

いて、信頼と分配額予測の間に正の相関が認められた。無音声動画条件では、一部のターゲットについて、信頼と分配額予測の間に正の相関がみられた。これらの結果は、信頼感の高い回答者は、ターゲット人物が相手に多く分配したと考える傾向が高かったことを示している。

表 1 信頼得点と分配予測の相関

ターゲット人物	分配金額 (相手に)	音声動画	無音声動画
0_A	0 円	.178***	.078
0_B	0 円	.161***	.076
1000_A	1000 円	.187***	.155**
1000_B	1000 円	.185***	.193**
1500_A	1500 円	.144***	.108*
1500_B	1500 円	.168***	.090

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

#### 信頼と分配予測の誤差

次に、各回答者について、分配額予測（音声動画条件では 3 回目、無音声動画条件では 1 回目）と各ターゲットの実際の分配額の差の絶対値を信頼性判断の正確さの指標とした。この指標は正解と予測の誤差であるため、数値が大きい方が正確度が低い。以降、混乱を避けるため、分配額と分配予測の「誤差」と表記する。この誤差と一般的信頼得点の間の相関を表 2 に示した。

表 2 分配額と分配予測の誤差と信頼得点の相関

ターゲット人物	分配額 (相手に)	音声動画	無音声動画
0_A	0 円	.178***	.078
0_B	0 円	.161***	.076
1000_A	1000 円	.011	-.090
1000_B	1000 円	.040	-.013
1500_A	1500 円	-.116***	-.115*
1500_B	1500 円	-.145***	-.134**

\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ , \*\*\* $p < .001$

表 2 は、音声動画条件では、高信頼者は利己的な分配をしたターゲットについては誤差が大きく、平等分配したターゲットについては誤差が小さかったことを示している。また、表 1 と表 2 から、ターゲットの発言内容が提示される音声条件では、高信頼者は一貫してターゲットが相手に多く分配したと判断する傾向があり、その結果としてターゲットの実際の行動が利己的であった場合には誤差が大きくなり、平等にふるまった場合には誤差

が小さくなったと考えられる。一方、無音声動画条件では、傾向としては音声動画条件と同じであるが、誤差に関しては、平等分配の時のみ信頼との相関が有意となっていた。

#### 信頼と予測の確信度の相関

自己の判断に対する確信度（音声動画条件では3回目の判断後、無音声動画条件では1回目の判断後）と信頼の相関を表3に示した。音声動画条件では、3分間の討議映像を視聴した後の自己の判断の確信度は信頼感と正の相関をもっていたが、無音声動画条件では、そのような相関は見られなかった。

表3 信頼と確信度の相関

ターゲット人物	分配金額 (相手に)	音声 動画	無音声 動画
0_A	0円	.119**	.055
0_B	0円	.101**	.003
1000_A	1000円	.116**	.061
1000_B	1000円	.110**	.018
1500_A	1500円	.116**	.002
1500_B	1500円	.119**	.003

#### 4. 考察

分析の結果、高信頼者が低信頼者に比べて他者の信頼性予測が正確だとは言えなかった。高信頼者は、ターゲットの発言を聞いた後でも、一貫して高い信頼を持ち続けていたため、その結果としてターゲットの信頼性が高い場合には正確な判断を、ターゲットが利己的にふるまっていた場合には不正確な判断を下していた。さらに、高信頼者は下した判断が不正確な場合でも、その判断に高い確信をもつ傾向があった。

ターゲットの発言内容が示されない無音声動画条件では、信頼の効果は小さく、高信頼者が一貫して他者を信頼する結果として、平等分配のターゲットについて、信頼性判断の精度が低信頼者を上回る点のみが確認された。

信頼性判断の確信度についての分析は、発言内容を知ることにより、高信頼者は判断に自信をもつことが示唆された。しかし、利己的な分配を行ったターゲットに関しては、自信をもって誤った判断を下したこととなり、「高信頼者は騙されやす

いお人よしである」可能性を示唆する結果となった。

本調査で用いられた動画は、社会的なテーマについての短い討議映像であり、発言には、平等主義や正義についての考え方等が含まれていたものの、そこから信頼性判断に有用な情報を選びとることは非常に困難な課題であったと考えられる。本調査の結果は、高信頼者、低信頼者ともに、正確な予測には遠く及ばなかったことを示すものでもあり、今後は課題の難易度を変化させながら、信頼性判断の正確さを規定する要因について検討を重ねる必要がある。

#### 参考文献

- [1] 菊地雅子・渡邊席子・山岸俊男 1997 他者の信頼性判断の正確さと一般的信頼—実験研究— 実験社会心理学研究, 37(1), 23-36.
- [2] Hayashi, N., & Yosano, A. 2005 Trust and Belief about Others:Focusing on Judgment Accuracy of Others' Trustworthiness. *Sociological Theory and Methods*, vol.37, 59-80.
- [3] 林直保子・与謝野有紀 2010 信頼, 社会的経験, 信頼性判断 日本社会心理学会第51回大会発表論文
- [4] 品田瑞穂・山岸俊男・Krasnow 2010 「社会的知性としての一般的信頼」日本グループ・ダイナミクス学会第57回大会発表論文
- [5] 山岸俊男 1998 信頼の構造：こころと社会の進化ゲーム 東京大学出版会